

社会主義体制に翻弄されながらも、
ソ連という土壌で素直に個性を発揮した作曲家

プロコフィエフ (1891~1953)

今回はプロコフィエフを採り上げます。

ストラヴィンスキー、ショスタコーヴィチと並んで20世紀最大の作曲家。

共にソビエトを祖国に持つ時代に活躍した作曲家同士であるが、その生き方考え方、曲風も違う…。ストラヴィンスキーは二人の尊敬すべき先輩であり、お互いに相性が悪いと感じていたのは、プロコフィエフとショスタコーヴィチとの間柄です。前回までショスタコーヴィチを採り上げましたので、対比的にその曲風の違いを感じていただきたいと思います。



【主な演奏曲目】

- *ピアノ曲「東の間の幻影」から
- *ピアノ協奏曲 3番から
- *ヴァイオリン協奏曲 2番 第2楽章
- *交響曲1番「古典交響曲」より
- *バレエ音楽「シンデレラ」より
- *組曲「ロメオとジュリエット」より

(いずれも抜粋して披露いたします。当日都合により、曲順、曲目を変更することがあります)



我孫子オーディオファンクラブ (AAFC) 分科会へのご案内 (会員による自主講座)

日時 / 7月8日(日) 13:30~15:45

場所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 山本 一成

参加自由・入場無料

問合わせ / 090-5422-5479 脇田 <http://www.aafc.jp/>